

4 - 1 - 1 2 タッチアップ

現場施工での各施工段階において傷の発生は避けられない。これらの損傷部は表 - 4 . 1 . 7 に従い、タッチアップを行い補修すること。

タッチアップを行う時期は以下の時点を基本とする。

- ・ 架設完了後（足場引き渡し時）
- ・ 床版打設後（足場解体前）
- ・ 足場解体後

各施工段階で発生した傷については、施工業者の責任で補修するものとする。また、足場解体後のタッチアップは、足場を解体する業者が行うものとする。

表 - 4 . 1 . 7 タッチアップ

施工段階	方 法
架設完了後 (足場引き渡し時)	部材の運搬、架設中に生じた塗膜損傷部のタッチアップは、現場継手部の塗装と合わせて行うのが一般的である。 鋼材面が露出している部分は動力工具や手工具により除錆し、塗膜面にサンドペーパーをかけて周辺部との段差を少なくしてから、下塗り塗料を現場継手部と同じ仕様で塗布する。 鋼材面が露出していない部分は、損傷部とその周辺の塗膜にサンドペーパーがけなどの処理をして段差を少なくするとともに、これらの面を活性化して塗り重ねられる塗料が付着しやすくしてから、変性エポキシ樹脂塗料を1層塗りした後、中塗り、上塗りを塗装系に従って塗布する。
床版打設後 (足場解体前)	床版打設時に塗膜が損傷した箇所については、塗替え塗装と同様に損傷部全面に素地調整3種を行い、鋼材露出部に変性エポキシ樹脂塗料を2度塗りした後、全面に変性エポキシ樹脂塗料を1層塗りし、その後中塗り、上塗りを塗布する。
足場解体後	作業足場解体時に塗膜が損傷した部分は、床版打設後（足場解体前）と同じ仕様でタッチアップする。 足場材が支障して塗り残した部分も同じ仕様でタッチアップする。

(解 説)

タッチアップは傷の発生後直ちに行うのが望ましいが、現場での作業性、色合せ等を考慮して、上記の段階でタッチアップを行うものとする。塗装の耐久性を考慮すると、足場解体後、高所作業車により、最終的にタッチアップを行うことが望ましい。

なお、タッチアップに当たっては、下記の点についても留意すること。

- 1) 塗膜損傷の発生状況を事前に調べ、塗り残しがないように十分に注意すること。
- 2) 運搬、架設後のタッチアップでは、素地調整された部分と周辺塗膜との段差をサンドペーパーによりなくした後に塗装作業を行う。
- 3) 現場塗装開始時および終了時のタッチアップの場合、中塗り、上塗りまでの期間が短い

で、M I O塗料は、エポキシ樹脂塗料下塗りや変性エポキシ樹脂塗料に替えて良い。

- 4) 箱断面部材の外面に現場溶接で排水金具を取り付けたり、吊りピ - スをガス切断したりした場合は、内面の変性エポキシ樹脂塗膜が損傷しているため、必ず補修を行わなければならない。
- 5) 鋼床版上面のタッチアップについては、現場作業となり、良好な素地調整を行うことは困難なため、有機ジンクリッチペイントでタッチアップするものとする。
- 6) いずれの場合のタッチアップにおいても、塗装間隔は厳守しなければならない。
- 7) タッチアップ材料には、「3 - 3 塗替塗装」に記載のある中塗・上塗兼用塗料を採用してもよい。

4 - 1 - 1 3 塗装用仮設備

- (1) 作業用足場は「労働安全衛生規則」の規定に従って設置すること。
- (2) 素地調整作業によって生じるダストや塗料の飛散を防止し、工具の落下や作業員の墜落を防ぐために、安全ネット、シート、金網及び板張り等で防護すること。
- (3) 箱桁や橋脚の内部での作業には照明設備を設けること。その際には、防爆型照明灯やゴム被覆キャップタイヤコードなどを用いて引火爆発防止対策をすることが必要である。
- (4) 箱桁や橋脚の内部などのように空気の流通の悪い所での塗装は、防毒マスクを使用するとともに、送風機や排風機を用いて強制換気すること。

(解 説)

- (1) 作業用足場は法に定められた事項に準拠して架設すると共に、作業員の安全と作業性を考慮した足場架設が必要である。
- (2) 道路上で吊り足場の下端が3.8m以下になる場合は、自動車の積載制限高の規定により吊り足場の架設が出来ないことがある。
- (3) 防護用シートは隙間を作らないように張り、落下物に対し十分な強度を有するものとし、足場に緊結して風によりとばされないような処置をする。また、隣接構造物に塗料が飛散する恐れがある箇所には側面を桁高まで張り防護すること。参考図を資料 - 2 に示す。
- (4) シート保護を取り付け後強風や大雨、大雪が予想される場合は、必要に応じてシートを取り外すなどの措置をとること。

4 - 1 - 1 4 工場塗装

工場塗装に際しては、以下の点に注意して施工すること。

- ・ 製品プラスト後、上塗塗装までの塗装間隔は所定の期間内に行うこと。
- ・ 各塗装工程において、塗膜の汚れを十分に除去すること。
- ・ 現場工程と調整し、工場塗装後の保管期間を極力短くすること。